

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 2 日現在

機関番号：33908

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520651

研究課題名（和文）台湾総督府文書の史料学的研究

研究課題名（英文）The Study of Archives of Taiwan Governor-General

研究代表者

東山 京子（HIGASHIYAMA KYOKO）

中京大学・社会科学研究所・特任研究員

研究者番号：80570077

研究成果の概要（和文）：本研究は、近代統治史料のなかで本府・法院・監獄・軍隊・専売・企業・地方州庁（街庄）・評議会などのあらゆる機関を持った小政府組織として存在していた台湾の統治機関である台湾総督府の行政文書を対象としたものである。

現存する台湾総督府文書は、文書課において管理される過程で、行政的に体系的に保存された文書群と、編綴される前または廃棄される前に接收された現用のままの文書群とで構成されていることから、当該文書はこの二つの異なる文書群が保存された、通常の文書管理制度では類を見ない文書形態が残されている。

このように本研究では、日本の近代を担ってきた行政組織の文書であり、現存する希少で豊富な価値を持つ歴史資料である台湾総督府文書を、近代公文書学的視点からその構造を明らかにしようとするものである。

研究成果の概要（英文）：This study aims to analyze the archives of Taiwan Governor-General. Taiwan Governor-General possesses all kinds of governmental organizations such as a Governor-General Office, local governments, councils, courts, prisons, military forces, monopoly bureau, government-owned companies and so on. Therefore, the archives of Taiwan Governor-General occupy a unique position in the historical materials from the perspective of modern governance.

The archives of Taiwan Governor-General in existence consist of two groups. One is conducted by the Correspondence Division, the Secretary of Taiwan Governor-General according to the regulation of preserving documents and is preserved administratively and systematically well. The other is used by departments of Taiwan Governor-General at that time and is received intact before being compiled or discarded. The form of the two kinds of archives makes the archives of Taiwan Governor-General distinct from general systems of archives management.

From the perspective of modern archive studies, this study demonstrates the structure of archives of administrative organizations in modern Japan's and Taiwan Governor-General's government, which had rare but significant historical materials.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野： 人文学

科研費の分科・細目： 史学・史学一般

キーワード： 台湾総督府文書・台湾総督府公文類纂・台湾総督府・史料学・台湾史料・近代公文書・文書学・アーカイブズ学

1. 研究開始当初の背景

現在、台湾南投市中興新村にある国史館台湾文献館が所蔵している台湾総督府文書は、公開はされているものの日本が統治した 50 年間における台湾総督府の行政文書たる「台湾総督府公文類纂」の文書構造を体系的に解明するに至っていない。

そこで、台湾総督府の組織機構および文書保存規則に関する法令と実際の運用を考察することで、総督官房文書課により整理され編綴されて保存管理されてきた「台湾総督府公文類纂」の文書構造を解明することとした。

2. 研究の目的

台湾総督府文書は、日本の外地統治機関である台湾総督府の行政文書であり、日本植民地研究にとって最も貴重な基礎的資料であるとともに、日本の行政機関が近代行政文書の何を保存し、何を廃棄したのか、またどのように保存してきたのかを知ることができる、最も重要な公文書史料でもある。

このため、本研究は、日本における近代公文書の史料論を構築するための手がかりとして、台湾総督府文書の文書構造を解明することを目的とする。

3. 研究の方法

台湾総督府文書の文書構造を解き明かす手立てとして、(1) 本府における組織構造を明らかにし、組織機構上の文書のあり方を分析すること、(2) 台湾総督府文書には、附属機関・下部機関・関係機関の文書が残されていることから、各機関における文書管理について明らかにすること、(3) 台湾総督府の文書保存規則では、永久保存・15年保存・永久保存・5年保存・1年保存に分類されているが、これまでの研究において、有期保存文書である15年保存が廃棄された形跡がないことから、文書保存規則により定められた法制度上と文書の残され方でみることができる実態運用を比較検討すること、(4) 敗戦という歴史的偶然性から台湾総督府文書が中

華民国政府に接收され、本来残ることのない5年保存と1年保存の文書が現存しているため、その実態を把握することによって、文書の取扱と運用とを具体的に明らかにすることと、の4点を軸にして解析することとした。

4. 研究成果

本研究を遂行するために国内と台湾において史料収集を行い、公文書の保存・管理・運用の立場から台湾総督府文書を史料学的に分析してきた。

この台湾総督府文書の文書史料的价值は、現存の台湾総督府文書の歴史的特徴にあった。それは、台湾総督府が敗戦という突然の終焉によって一挙にすべての時間が止まり凍結されたままの状態ですべての財産が中華民国政府に引き渡されたことにある。まさに、台湾総督府の文書には、突然の敗戦により、時間の止まった空間がそのままの空間として引き継がれ、ある程度の散逸は免れなかったもののほぼ敗戦当時の文書群として残されたのであり、それが現在の我々に伝えられたという、歴史的運命が刻まれていた。

このため、現存の台湾総督府文書には台湾総督府の文書保存のシステム上では残ることのない有期保存文書も現用の状態で残されているという、画期的な側面すらある。その結果、起案から収受発送決裁そして保存管理までが規則である公文書のライフサイクルに基づいて保存されている文書と、突然の敗戦により引き継がれた現用文書と廃棄される前の有期保存文書と一緒に保存されることになった。

その残されている文書のレベルでは、文書課が文書を記録し、整理する過程で作成される収受件名簿や補助簿など通常では知ることの少ない通常業務記録文書類から、皇太子行啓に関する文書といった歴史の徴考となるべき文書といった上位の文書まで幅広く保存されている。これらは台湾総督府の文書の特徴であり、本研究により台湾総督府文書の

文書構造を解明した。

さらに、地方の台南州における終戦に関する文書の存在を確認し、終戦直後に総督府が行ってきた台湾人の戦地や日本からの引き揚げに関する処置についても明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 8 件)

- (1) 東山京子「恩赦文書から見る台湾総督府の文書管理」(第七屆臺灣總督府檔案學術研討會論文集・國史館臺灣文獻館、台湾、査読有、2013年5月、391頁～424頁)。
- (2) 東山京子「中華民國台湾の文書管理」(『社会科学研究』査読有、第33巻第1号、中京大学社会科学研究所、2012年9月、85頁～141頁所収)。
- (3) 東山京子「台湾総督府の殖産政策における史料学的分析—台湾統治初期の「殖産報文」と「復命書」からの考察—」(『社会科学研究』査読有、第32巻第2号、中京大学社会科学研究所、2012年3月、299頁～350頁所収)。
- (4) 東山京子「台湾領有初期における対原住民政策—深堀安一郎探検隊と長野義虎意見書からの一考察—」(『社会科学研究』査読有、第32巻第2号、中京大学社会科学研究所、2012年3月、269頁～298頁所収)。
- (5) 東山京子「台湾総督府文書」の構造と特徴」(『京都大学大学文書館だより』査読有、第21号、2011. 10. 30/Vol. 21、2頁～4頁)。
- (6) 東山京子「皇太子台湾行啓関係文書の史料学的分析」(『社会科学研究』査読有、第31巻第2号、中京大学社会科学研究所・2011年、65頁～115頁)。
- (7) 東山京子「台湾総督府の敗戦処理についての史料学的考察—台南州の「終戦処理ニ関スル書類」を中心に—」(『社会科学研究』査読有、第31巻第1号、中京大学社会科学研究所・2011年、173頁～285頁)。
- (8) 東山京子「台湾総督府文書のアーカイブズ学的研究—近代公文書学の構築に向けて—」2010年度学習院大学人文科学研究科アーカイブズ学専攻博士論文、査読有、456頁、2010年9月30日提出。

[学会発表] (計 6 件)

- (1) 東山京子「台湾における行啓と御大典にかかわる記念事業について」(「近代東亜中的台湾」国際學術研討會報告、於國立臺灣圖書館、台湾、2013年3月16日)。
- (2) 東山京子「恩赦文書から見る台湾総督府の文書管理」(第七屆臺灣總督府檔案學術研討會報告、於國史館臺灣文獻館、台湾、2012年8月30日)。
- (3) 東山京子「台湾の震災と台湾総督府官僚一被災調査報告の共有化と被災記録の伝承—」(2012年、東アジアにおける日本と台湾—台湾史研究の現段階と今後の課題、中京大学社会科学研究所主催、於中京大学ヤマテホール、2012年7月1日)ポスター・予稿集、報告書あり。
- (4) 東山京子「九・二—台湾中部大地震における文書史料の救助と修復及びその後の対策—住民の記録をどう守ったか—」(東アジア近代史学会2012年度第17回研究大会報告、2012年6月17日・第12回歴史資料セッション「激甚災害において公文書などの記録を如何に守っていくのか—3・11東日本大震災の教訓から—」於日本大学文理学部百周年記念館国際会議場)ポスター、予稿集あり。
- (5) 東山京子「台湾総督府文書が語る日本の公文書管理」*L' amministrazione archivistica pubblica giapponese attraverso i documenti dell' Ufficio del Governatore Generale di Taiwan* (「Ca' Foscari Venezia per il Giappone 2012」国立ヴェネツィア文書館主催、於ヴェネツィア大学カ・フォスカリ講堂、イタリア、2012年3月12日)。
- (6) 東山京子「台湾総督府の敗戦処理に関する史料学的問題について」(台湾光復六十五周年抗戰史実學術研討會報告、中国社会科学院台湾史研究中心主催、於中国重慶、2010年11月5日～10日)。

[図書] (計 6 件)

- (1) 東山京子、檜山幸夫他編纂『台湾総督府文書目録』第29巻、ゆまに書房、2012年3月、603頁。
- (2) 東山京子解説「台湾総督府文書と殖産報文」(『殖産部史料』、龍溪書舎、2011年10月、1頁～35頁)。
- (3) 東山京子「帝国の崩壊と台湾総督府の敗戦処理」(『帝国日本の展開と台湾』、

創泉堂出版・2011年4月、215頁～269頁)。

(4) 東山京子、檜山幸夫他編纂『台湾総督府文書目録』第28巻、ゆまに書房・2011年3月、663頁。

(5) 東山京子、檜山幸夫他編纂『伊藤博文文書 秘書類纂』第三一巻・第三二巻・第三三巻、台湾一・台湾二・台湾三、ゆまに書房、2010年6月、402頁・422頁・445頁。

(6) 東山京子解題「伊藤博文と台湾総督府」(『伊藤博文文書』第三一巻 秘書類纂 台湾一・第三二巻 秘書類纂 台湾二・第三三巻 秘書類纂 台湾三、ゆまに書房、2010年6月、385頁～445頁、所収)。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

東山 京子 (HIGASHIYAMA KYOKO)
中京大学・社会科学研究所・特任研究員
研究者番号：80570077

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：